

講義50人受講 木工インテリア

佐補氏ら小石木材キリン

学科デザイン大工広

広島工業大学（広島市佐伯区）環境学部デザイン学科は、建築とインテリア・木工、デジタルデザインを含む幅広いカリキュラムを特徴として9年前に開設された。

家具のデザインから製作までを学ぶ木工・インテリアの講義では、鋸や鉋の手工具からパネルソーや丸鋸昇降盤、自動鉋盤、手押し鉋、ボール盤、ほぞ取り機、旋盤など本格的な木工機械を使って製作する。50人の履修生の安全確保と授業の進行のため、担当の森田秀樹教授は講義時間中の補助的な指導役を外部に委託している。

9月24日に開講した2年生の工房実習Aの講義では常藤家具製作所（広島県廿日市市）の常藤辰徳氏とキリン木材（同）の小石知伸プレカット部部長が授業の合間に学生を指導した。

小石氏は森田教授の前任の番匠谷薫氏の時代から委嘱され今年で9年目。一枚板のテーブルの製作を得意とする常藤氏は4年目。ゼ

学生に鉋刃の調整を指導する小石氏（左）



伸ばした学生のの手をとつさにつかんだことがある」（森田教授）と経験上、学生数に見合った人の目の必要なのを知っている。

「大学の講義で家具を製作するのは珍しく、鉋を使う機会はなおさら少ない」（森田教授）と建築や木工業界にとって希少な人材育成の場となっている。

ミの4年生2人とともに5人体制でスムーズな履修と安全確保に万全を期す。「電動工具の刃先の切り屑に手を板に描く「けがき」を行